

渋沢栄一による『論語と算盤』を通じたディスカッションから、私たちの「いま」を考える読書会です。第12期の参加者を募集します。

対面／全6回

第12期

『論語と算盤』

読書会

幅広い分野で活躍した渋沢栄一は『論語』を行動の拠り所とし、『論語と算盤』という本を遺しました。近年では、『論語と算盤』の現代語表記本や現代語訳などが相次いで出版され、渋沢の思想から経営、仕事、人生のヒントを得ようとする関連書も多数出版されています。

本読書会は、『論語と算盤』をテキストに全10章の内容を毎月2章ずつ読み進めディスカッションを行います。終了時には、参加者一人一人がアドバイザーとなって『論語と算盤』の読書会を開けるよう、仕事や経営、教育、研究、生涯学習、地域活動など様々な場面で活かしていくことが目標です。

渋沢栄一や『論語と算盤』に関心がある方、また幅広い世代の方とのディスカッションを通じ知見を広げたい方にもおすすめです。

講師 守屋 淳 (作家)

形式 対面 (北とびあ会議室、1回目は北区飛鳥山博物館)

期間 2024年2月～2024年7月

実施日 2月10日、3月9日、4月13日、5月11日、
6月8日、7月13日
ディスカッションは全5回、2/10は守屋淳先生の講義を実施します

時間 14:00～16:00

参加費 2,000円 (全6回分、テキスト代含む)

定員 30名 (申し込み多数の場合は選考を行います)

参加条件 ディスカッションを円滑に進めるため、全6回全ての回に参加できる方が対象。
欠席された場合でも参加費の返金はいたしませんのでご注意ください。

お申込み 渋沢栄一記念財団のウェブサイトよりお申込みください。

ウェブサイト <https://www.shibusawa.or.jp>

[トップページ](#) ▶ [研究センター](#) ▶ [企画・セミナー等情報](#) ▶ [『論語と算盤』読書会](#)



締切

2024年
2月2日 金



渋沢栄一 (渋沢史料館所蔵)

お問合せ先 公益財団法人 渋沢栄一記念財団 研究センター
event0010@shibusawa.or.jp
メールでお問合せください



公益財団法人 渋沢栄一記念財団

〒114-0024 東京都北区西ヶ原 2-16-1 (飛鳥山公園内)



守屋 淳


(作家・グロービス経営大学院特任教授)

1965年東京生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。大手書店勤務を経て、現在は中国古典、主に『孫子』『論語』『老子』『莊子』『韓非子』などの知恵を現代にどのように活かすかをテーマとした、執筆や企業での研修・講演を行う。『現代語訳 渋沢栄一自伝』(平凡社新書)、『現代語訳 論語と算盤』(ちくま新書)、『渋沢栄一「論語と算盤」の思想入門』(NHK出版新書)、『ビジネス教養としての「論語」入門』(日本経済新聞出版社)など。

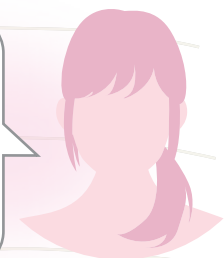
守屋淳オフィシャルウェブサイト <https://chineseclasics.jp/>

過去の読書会 参加者の コメント


(第10期・第11期)



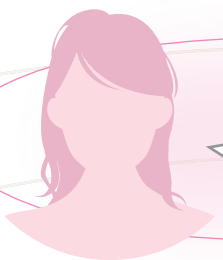
『論語と算盤』を通じて、渋沢栄一の生き方、考え方、在り方に触れることができ、いつも自分自身と照らし合わせてみていました。なかなか1人では深く理解することができない『論語と算盤』ですが、読書会を通じてみなさんとディスカッションすることにより、理解を深められたことが何よりも良かったです。



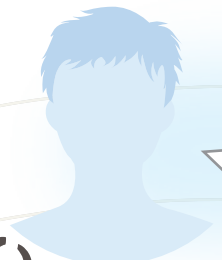
非常に勉強になりました。幅広い世代の方々が集まり、それぞれのご経験と知見に基づいた『論語と算盤』という書籍に関する考え方を学べたことは、若い私には大変勉強になった次第です。



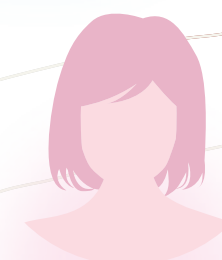
なかなか自分では深く読む機会が得られずにいましたが、おかげさまで守屋先生の解説、みなさんとのディスカッションを通じて学び多かったです。



仕事する上で大切にすべき価値観を再認識することができました。また、普段道徳的な考え方についてディスカッションする機会がないため、自分の考えや想いを言語化して説明するための場にもなりました。



毎回違う方の捉え方やご意見を聞くことも物の見方の幅が広がります。日常もよく思い出しては話題にしたりします。何度でも学びたいです。



一冊の本にじっくりと向き合い、いろいろな意見を聞く中で新たな発見もあり、自分のこれからの生き方を考える良い機会になりました。